

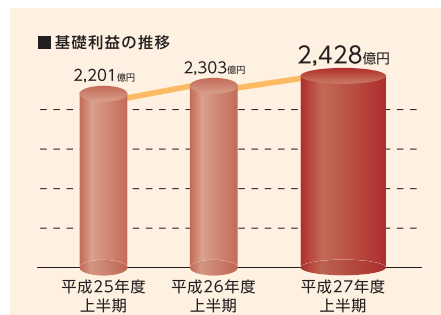
[収益性・主要業績について]

順ぎやを維持し、
引き続き高い収益力を確保しています。

1 基礎利益

2,428億円

おかげさまで、前年同期比3年連続の増益となりました。



基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息および配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表す指標です。平成27年度上半期の基礎利益は、2,428億円(前年同期比5.4%増)となりました。

*基礎利益に、有価証券等の売却損益・評価損益や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款に従い配当としてご契約者に還元しています。

基礎利益の内訳 (単位:億円)

	平成25年度上半期	平成26年度上半期	平成27年度上半期
基礎利益	2,201	2,303	2,428
費差	203	172	21
除く年金資産の時価変動部分*	243	221	169
危険差	1,463	1,514	1,393
利差	534	616	1,013

*退職給付費用における年金資産に係る数理計算上の差異の費用処理額を除いた費差。

*平成25年度決算より、基礎利益の内訳の算出方法を一部変更しております。

- 費差: 保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出額との差額
- 危険差: 保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
- 利差: 保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額

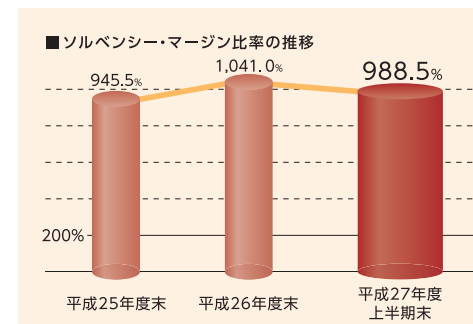
[健全性について]

引き続き、高い健全性を維持しており、
お客さまに確かな安心をお届けします。

3 ソルベンシー・マージン比率

988.5%

予測を超えたりリスクにも対応できる支払余力を確保しています。

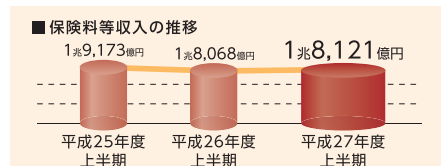


ソルベンシー・マージン比率とは、株価の暴落など通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。平成27年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は988.5%(前年度末差52.5ポイント減)となりました。

2 保険料等収入

1兆8,121億円

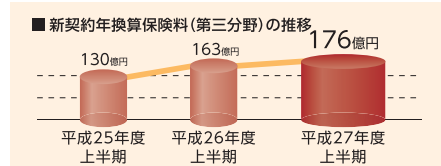
お客さまからお払い込みいただいた保険料を、大切にお預かりしています。



保険料等収入とは、ご契約者からお払い込みいただいた保険料による収益です。

平成27年度上半期の保険料等収入は、ほぼ前年同期並みの1兆8,121億円(前年同期比0.3%増)となりました。

なお、当社が注力している医療・介護等の第三分野業績においては、新契約年換算保険料*が176億円(前年同期比7.9%増)となりました。

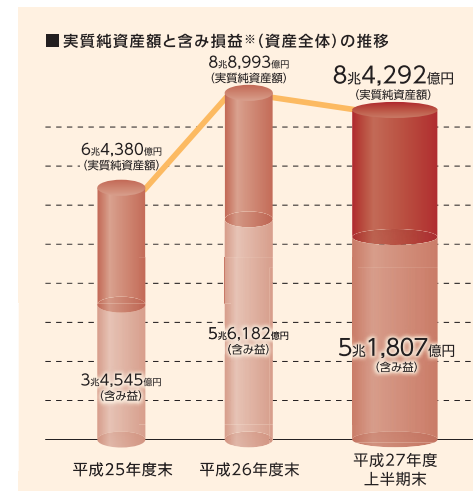


*新契約年換算保険料とは、各契約について、お払い込みいただく保険料を1年あたりに換算した業績指標です。

4 実質純資産額

8兆4,292億円

健全な経営を維持するための純資産額を堅持しています。



実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。

平成27年度上半期末の実質純資産額は8兆4,292億円(前年度末差4,701億円減)で、一般勘定資産全体の含み損益は5兆1,807億円(前年度末差4,374億円減)となりました。

国内株式含み損益ゼロ水準
7,900円程度

平成27年度上半期末における当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準は、日経平均株価で7,900円程度となりました。

*仮に当社ポートフォリオが日経平均株価にフル連動とした場合

*含み損益とは、保有資産の時価と帳簿価額との差額です。